

氏名： 竹村 和子 (TAKEMURA Kazuko)
 所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
 学位： 人文科学博士 (2003 お茶の水女子大学)
 文学修士 (1980 お茶の水女子大学)
 職名： 教授
 専門分野： 英語圏文学、批評理論、フェミニズム、ジェンダー研究
 E-mail： takemura.kazuko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

表象／批評理論／暴力／ジェンダー／英語圏
 representation / critical theory / violence / gender / English

◆主要業績

総数 (17) 件

- ・『欲望・暴力のレジーム——揺れる表象／格闘する理論』（編著）
作品社、2008年、262頁
- ・"Human/Unhuman: Death and Life in Biopolitics."
F-GENS Journal 10 (2008): 52-57.
- ・「デリダの贈与——脱構築／ポリティックス／ポスト性的差異」
『環』13号（デリダ特集号）2007年12月、342-53頁
- ・「スクリーンからの手紙はどこに届くのか——日韓米の戦争映画とジェンダー言説」
『文化表象の政治学——日韓女性史の再解釈』2007年8月、124～34頁
韓国語訳、同304～16頁
- ・"Politics, Translation, and Vulnerability" Invited Speech
Session 3 "The Critic and the Worldliness of Comparativism"
ICLS 2008 Annual Conference, "Comparing, Editing Translating." (at Columbia Univ. New York, USA, on
March 27, 2008)

◆研究内容 / Research Pursuits

「暴力」の形態の変容について、性規範と表象の面から、理論的・実証的に分析・考察した。具体的には、①暴力と生政治の関係；②デリダの文脈でのポスト性的差異の考察；③近年の映画表象に見る性規範と証言の(不)可能性；④文学および精神分析とジェンダーの関係；⑤ジェンダー平等の理念的考察；⑥コロンビア大学での比較性と政治の関係の招聘発表；⑦スピヴァク・コロキウムでの応答発表；⑧日本英文学会での単性生殖的表象の発表；⑨日本音楽学会でのオペラとジェンダーの応答などである。

Reexamination of the intimate/public spheres in terms of feminist theory and of representations of violence. The following are the topics I dealt with during the 2006 academic year.

1. Relationship between violence and biopolitics.
2. Post-sexual difference in Derridian terms.
3. Sexual norms and the (im)possibility of testimonies in recent war films in Japan, Korea, and the US.
4. Relations of literature and psychoanalysis to gender issues.
5. Theoretical approach to gender equality.
6. Invited speech on the worldliness of comparativism at Columbia University.
7. Response at the Spivak Colloquium.
8. Presentation on monogenic representations at the 2007 ELSJ conference.
9. Response at the "Opera and Gender" symposium at the 2007 MSJ conference, etc.

◆教育内容 / Educational Pursuits

「英文学特殊講義 2」

20 世紀の米国文化・米文学を、暴力とセクシュアリティの面から考察。

「特別演習 (英米文学研究方法論 1)」

「英文学特殊講義 (批評理論)」

文学分析の方法論を身につけるために、いくつかの批評理論を取り上げ作品の分析への応用を習得。

「特別演習 (作品分析)」

Toni Morrison の *Sula* を精読して、人種とセクシュアリティの結節点の表象を分析。

「英米文学演習 (初級)」

Henry James の “The Beast in the Jungle” を精読。ホモセクシャル・パニックに言及。

「卒論指導」：卒論の指導。

コア英語を担当。

[大学院]

「米文学特論 (批評研究)」

アカデミズムにおける「難解な」著作の意味を考察。
Just Being Difficult? 等を検討。

「米文学演習 (作家研究)」

Spivak と Butler の対談を検討し、受講生の論文執筆の方向性を検討。

Teaching undergraduates American literature, critical theory, and feminist studies and, to graduates, significances of the “difficulty” of current theoretical writings.

1. Lecture on English Literature: Reexamination of 20th-century American culture in terms of violence and sexuality.

2. Seminar 1 & Lecture (Literary Theory): Training critical thinking to be required for writing dissertations. Lectures, presentations by students, and discussion.

3. Seminar: Reading Toni Morrison's *Sula*, focusing on race issues and sexuality described there.

4. Seminar: Reading Henry James' s “The Beast in the Jungle” , focusing on homosexual panic.

5. Supervision for dissertations.

6. English Classes for language training.

7. [to Graduates] Advanced Seminar and Lecture: Examination of the “difficulty” of current academic writings, including those by Spivak and Butler, and roundtable discussion on researches by the students.

◆研究計画

以下の二つのテーマを追求する。

1. 近年顕著に見られる暴力について、これを近代的自己形成の変容（ポスト近代的自己の出現）と捉え、暴力の再布置の理論化を推し進めて、領域横断的なポスト人文学の可能性をさぐる。
2. グローバル化する英語圏文学（ハリウッド映像やニュース報道も含む）の位置づけ、および近代日本文学との交差の再定位。

◆メッセージ

いつも人は、「前例のない時代」を生きています。今まで「当たり前」だった事柄が、当たり前ではなくなるのです。けれども現代は、とくに世界全体が大きく様変わりしようとしています。国境を超えて人やモノやマネーや情報が動き、人の身体のパーツも徐々に変換可能・変更可能になっていき、わたしたちが得る情報も電子テクノロジーを介して一挙に拡大・変質していますね。このような、歴史の転換期にこそ、人が本当に自由に、平等に、幸福に生きていけるような知恵を養うことが必要です。

世界では教育を受けられない人たちが、残念ながらたくさんいます。高等教育はなおさらです。ぜひみなさんが、〈深い思考〉と〈十全なアカデミックな訓練〉と〈広く公正な視野〉を、大学時代に身につけることを心から望んでいます。社会に世界に発信する女性になってもらいたい、と思って教育に携わっています。

大学院を志す人は、『研究する意味』（東京図書）に文章を書きましたので、それを参考にしてください。